

高知中央地域のバス路線の系統番号化について

高知工科大学 正会員 重山陽一郎

高知県中央地域では、2014年10月に発足した「とさでん交通株式会社」が公共のバスを運営している。発足に合わせて、バスの系統番号化と新しい路線図のデザインが行われ、筆者はその実務を担当した。この稿では系統番号化と路線図の概要を紹介する。

1. これまでの経緯

1.1 以前の系統番号と路線図

2014年9月までは、土佐電気鉄道株式会社（以下、土電）と高知県交通株式会社（以下、県交通）の2社がバス事業を運営していた。土電のバスは下り便のみに系統番号があり、県交通のバスには番号がなかった。両者が個別にバス路線図（土電は16枚組み、県交通は大きな1枚）を持っていたが、系統を読み取ることができないものだった。

1.2 路線図の改良とバス停のデザイン

2012年に高知県中央地域バス路線再編協議会（高知県、市町村、バス会社）に基づいて、一部のバス路線の再編が行われ、合わせて、新しいバス路線図とバス停のデザインが行われた。筆者は路線図とバス停のデザインの実務を担当した。路線図は2社のすべてのバス停をA1サイズ1枚にコンパクトにまとめたものを作成した。この時点では、まだ系統番号化は行われていないが、この時の路線図が現在の路線図のベースになっている。また、工業高校の協力を得てA3サイズ3枚が収納可能なバス停をデザイン・製作した(図2)。このバス停は、毎年追加設置されている。

1.3 とさでん交通株式会社の設立

2014年10月に土電と県交通が統合され、とさでん交通株式会社（以下、とさでん）が発足した。設立に当たっては、高知県と関係市町村から合計で10億円が出資された。これに合わせて、バスの系統番号化、一部のバス路線の再編が行われ、あわせて全体の路線図(図1)、一部のバス停の路線図(図3)が大きく改良された。筆者はこの系統番号化と路線図のデザインの実務を担当した。また、合わせて時刻表(図4)とバスの方向幕(図5)も改良された。

2. 系統番号化の目的

これまでのバスは「地名ベース」で行先や経由地を表示していた。地元によく住む土地勘のある人々にとってはこれで問題がない。一方、観光客などの土地勘のない人、漢字の読めない外国人にとっては「番号ベース」の案内が有用である。また、地元の人々にとっても、あまり利用しないバス路線を使う際には、「番号ベース」の案内が有用である。このように、地名や土地勘に詳しくない人の利便性をあげ、使いやすいバス網とすることが系統番号化の目的である。

3. 系統番号化の概要

3.1 中心にターミナルの無い放射状の路線網

高知県中央地域のバス網は、街の中心であるはりまや橋交差点から放射状に郊外に延びているが、はりまや橋付近にバスターミナルが存在しない。バスターミナルがあれば、そこでバスの時間調整、乗客の乗り換えなどが可能であるが、それがないうえ、郊外からはりまや橋にきたバスは、そのまま別の方向の郊外に向けて、すぐに出発する。このような「郊外→中心→郊外」という路線で構成された路線網に対応した系統番号化が必要だった。

3.2 「アルファベット+数字」による系統番号化

全国の事例では「数字のみ」の系統番号や「漢字+数字」のものなどがあるが、高知県中央地域では「アルファベット+数字」を採用した。放射状の路線に対応して方向別にAからZまでのアルファベットを割り当て、さらに行き先によって[A3], [F4]などと数字を割り振った。さらに「郊外→中心→郊外」を「郊外→中心」と「中心→郊外」のセットとして[A3▶F4]などと表現した。

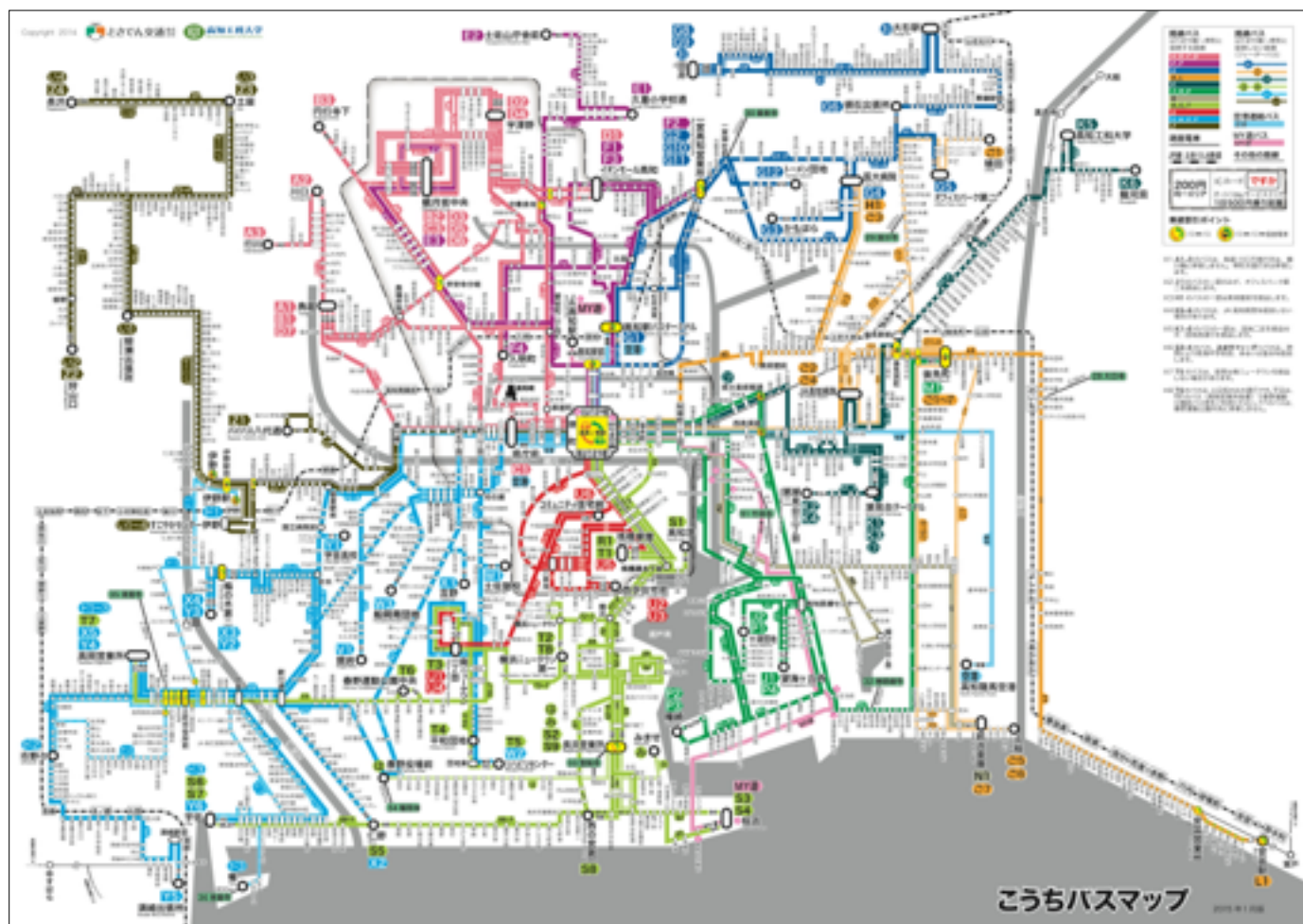


図1 系統番号化に対応した全体路線図



図2 2012年度にデザインし、工業高校で製作したバス停



図3 堺町バス停（はりまや橋の近く）の路線図と時刻表

D1 K3	F1 T1	F3 C1
堺町、堺町方面 瀬見山方面行き	高知駅、はりまや橋方面 高知駅行き	高知駅、はりまや橋方面 高知駅行き
6m 03	21	
7m 15	31 56	40
8m		
9m		

図4 時刻表のテンプレート



図5 バスの方向幕の系統番号表示
左は「はりまや橋→郊外」 右は「郊外→はりまや橋」



図6 はりまや橋交差点の
乗り換え案内サイン